



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN
佐土原ロータリークラブ週報



**意識を喚起し
 進んで行動を**

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

職業奉仕米山月間

第663回 平成12年10月18日(水)

[本日のプログラム]

の 17/17 歯車会
 8:30 29-7

1. 点	鐘	次 回 予 告
2. ローターソング		★10月25日(水)
「みんなでロータリー」		クラブ創立記念
3. 食	事	プログラム
4. 会長の時	間	理事・役員会
5. 幹事報告		
6. 委員会報告		★11月 1日(水)
7. 点	鐘	ロータリー財団
		プログラム
		11月セレモニー

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会 長	梶田與之助
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	吉田康一郎
事務局	宮崎県佐土原町大字下郷阿3887-17	幹 事	宮原 建樹
	☎880-0212	会 計	後藤 明夫
	TEL.及FAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

第662回例会記録 (2000.10.11)

☆会長の時間

会長 梶田 與之助 君

皆様、今晚は。

本日は第662回の例会です。

さて、今、季節はスポーツの秋、本番であります。

シドニーオリンピックのメダリスト達は、各地のイベントに招待され、大人気を博しておりますが、陰で支えてくれた人達の存在を忘れてはいないと思います。

宮崎経済新聞の記事を引用しますと、右腕、知恵袋、ふところ刀、ブレーン、いろいろな言い方がありますが、簡単に言えば強い味方のことである。これを持つと持たないとは大きな差がでる訳であります。場合によっては本人の存在よりも重要かも知れない。

シドニー五輪で金メダルを獲得した、高橋尚子選手にも優れたコーチがいた。喝采と称賛を浴びるのは高橋選手だが、小出監督なくしては金メダルはあり得なかったのではないのでしょうか。

世の中には、自分が勝つのではなく、「勝たせる喜び」というものもあるのだろう。正に、表に出ない英雄、影のヒーローである。いかにも日本人好みのテーマではありませんか。

言葉は悪いかもしれませんが、高橋選手の代わりはいても、小出監督の代わりはいないのであります。その人間を最高に輝かせるにはどうすればいいか、本人も気づいていない能力をいかに引き出すか、ブレーンたちはそのことだけに熱中する。この人を勝たせたい！そういう人物に出

合わなければ折角の知恵袋も役に立たない。そういう意味で高橋選手と小出監督は名コンビだった。

「勝ちたい」という人と「勝たせたい」という人は目標が完全に一致する。その時初めてベクトルが2倍になる。自分一人では成し遂げられない勝利を手に入れることができるのであります。そんな二人が出会うこと自体が奇跡なのであるが。

ヒトラーも織田信長も歴史上に名を残した英雄たちには必ずブレーンが存在したのであります。

今日の宮崎日々新聞の一面に、井上康生選手に県で第一号の県民栄誉賞が贈られたという記事が載っていました。県民に夢と感動を与え、家族を大事にする姿は子供たちにも、希望と勇気を与えてくれたことでしょう。

また、この井上選手にも側面から支えてくれた、ブレーンが存在しているのであります。

☆幹事報告

幹事 宮原 建樹 君

1. 例会変更通知

10月25日(水)は「職場訪問」の為、
場所 (兼) 志多組に変更

宮崎北RC

2. 地区大会 宿泊旅行 変更について
当初、鹿児島ワントゥデイを予約しておりましたが、鹿児島ワントゥデイがより安価のた

め、変更しました。詳細は後日お知らせ致します。

本日は会員卓話（後藤明夫君）になっております。時間はたっぷり取っておりますので、よろしくお願ひします。

☆出席報告

委員長代理 田村勝二君

会 員 数	28名
例会出席者	20名
出席率	71%
マークアップ者数	3名
修正出席率	82%
欠席者名	詞 磯 鯉 鮎

☆クラブフォーラム

地区ライラ委員 伊東忠寛君

1. 佐土原RYRA開催について

①準備計画について

前回、恒吉新世代委員長から「佐土原RYRA実行委員会の組織構成」が発表されました。

この度、ロータリー文庫「RYRA指導指針」を取り寄せ、勉強していますが、開催日を起点に数ヶ月溯って余裕を持った「備業務計画と業務分担」を明確にする必要があります。

えてして…誰かがやるだろう…で他

人任せになる傾向があるそうです。

皆さんの「やる気」と「ご協力」
をお願いします。

②「テーマ」について

最近の社会問題でやはり「青少年問題」が課題として上げられます。

抽象的ですが「21世紀における私達（青少年）の役割…」をテーマとして、研修会プログラムを構成してみたいかがでしょうか…。

とくに研修講演には、青少年問題の実務経験者である宮崎県警察本部生活保安課の北川警部をお招きしてみたいと考えています。

2. その他（雑感）

前回の例会で「各自テーマを考えてくこと」となっていたましたが、ほかに何も出ない…クラブの現実を寂しく思いました。

☆会員卓話

後藤明夫君

最新の住宅プランをみる

住宅金融公庫の融資で建てられている住宅に、新しいプランが登場しています。その背景には、近年の家族形態の変化があるように思われます。

「少子高齢化」という言葉が聞かれますが、これは人口構成上で若い人が少なくお年寄りが多いという特異な状態が顕在化していることを示唆しています。

誰が住むのか、どんな生活をするのかで、住宅づくりは大きく変わってきます。子育て期ではなく、子供を育て上げた後の住宅とは、どんな住宅なのでしょう。

この時期の家族は、年齢にして50歳、60歳代が中心で、必ずしも高齢とはいえません。また、子供の独立は、夫婦の関係を改めて考える契機にもなるようです。

例えば、夫と妻の個室がとなりあわせに並ぶ特徴的な間取りがありますが、これは互いのリズムや個人的な趣味の時間を尊重しあう熟年夫婦の生活を示唆しているようです。

集合住宅を対象とした調査でも、子供が独立した後の夫婦の半数が別室に就寝しているという結果が出ています。

一方、熟年のふたりだけの生活では、個室は不要と考え、思い切ってオープンにしたワンルーム的な間取りも造られています。

熟年から高齢になる過程では、寝室に対する考え方が大変重要になると思われます。

ベッド位置を南面させ、ゆったりとし

たスペースをとることは、快適な休息や、介護の行動を容易にする高齢期の好ましい間取りと考えられます。

これまでは、住宅の間取りを「3LDK」や「4LDK」などと呼び表してきました。しかし、夫婦と子供からなる家族ではない小規模な家族、子育て期の中年世代ではない、熟年世代、高齢世代のみが住む住宅の比率が高まる中で、これまでも異なる家族関係やライフスタイルに対応した、新しい間取りの考え方が求められていると言えましょう。



Happy Voice

10月20日 50回目の誕生日を迎えます。気持はまだまだ青年です。

これからも健康に留意して、年齢を感じさせない体力、気力を保ち続けたいと思います。

お祝い有り難うございました。

福井 輝文

誕生日のお祝い有り難うございました。53歳になりました。

健康に気をつけながら、仕事にロータリー活動に頑張ります。

太田 忍

